タイトル：2024 年度 教育セミナー（第 20 回）
日時：2024 年 9 月 19 日（木）～22 日（日）
場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階 大会議室（303）

飯田大貴（早稲田大学文学研究科修士 2 年）

2024 年 9 月 19 日から 22 日に行われた中東☆教育セミナーに参加させていただきました。私自身は発表を行わなかったのですが、非常に有意義でありました。

私は初日を別件でお休みしてしまったのですが、2 日目以降の発表やポスター発表は非常に興味深かったです。まずポスター発表の感想ですが、2 名のポスター発表を拝見いたしました。後藤先生がおっしゃっていたように、ポスター発表は発表方法が難しいにもかかわらず、お二方とも非常に面白く、かつ私にとって勉強になる発表でした。最初に拝見したのは帝政期のロシア文学に登場する帝国主義や女性表象というテーマを研究されている方の発表で、非常に精緻に文献を読み込んでいるのが印象的でした。お二方目の発表は研究計画を発表されていて、モロッコの教育制度に関するフィールドワークをしたいとのことだったと思います。非常に広い範囲で興味分野を持たれている印象でした。どちらも質問時間が設けられ、極めて和やかに発表が行われた印象です。

次に口頭発表を拝聴した感想です。口頭発表はどの方の発表でも非常に勉強になりました。特に興味深かったのが、オスマン帝国史の国籍法、トルコ共和国における司法裁判所、現代クルドに関する発表を非常に興味深く聞かせていただきました。私がオスマン帝国史に非常に大きな興味を持っているというのはありますが、特に国籍法に関しては、内政上の問題以上に、外交問題として視ようという試みが非常に野心的でなおかつクリティカルなテーマ設定だと感じました。実際に私が研究している休戦期（1918-1922）オスマン帝国のトルコ主義においても、アフメト・エミンという人とアフメト・フェリトという人が新聞でこのテーマに関して論戦をしています。どこまでがオスマン人なのか、そしてその区切りにどのような意味があるのかというのがフェリトとエミンの論争の核ですが、これが外交上の問題として取り上げられているのが非常に興味深い点でありました。トルコ共和国の司法裁判所に関する発表に関しては、私は現代史に疎いため、非常に有意義でした。髙松先生がおっしゃっていたように、意外とトルコの司法部門はきっちり仕事をしているなあという印象です。月並みな感想ではありますが、「世俗国家」たるトルコ共和国のモラリティがいかなるものかというのを漠然と理解したような気がします。そして現代クルドの研究です。この方は非常に重大な研究をされています。少し遅れて感想を書いておりますが（現在 10 月 27 日）、ちょうど先日アンカラのトルコ航空宇宙産業社 TUSAŞ でテロが発生しました。政府は PKK による犯行であると断定していますが、トルコ共和国では混迷を呈しています。こうした一連の事件やテロを解明するのが現代政治研究の重要な点であると感じるので、この発表は非常に有意義なものでありました。内容としても、HDP の変遷や投票行動の変化に関して統計データを用いた量的調査が行われており、非常に

緻密なものであると感じさせます。そのほかに拝聴させていただいた発表の数々も極めてクリティカルで、歴史的な事実に興味を持っている私にとって極めて有意義な時間となりました。発表の時間外にも、いろいろな方と雑談を交えた情報交換をさせていただき、こと、スペイン国民論には興味を引かれました。

学生による口頭発表のほかに先生方による講義もあり、これも同様に有意義な物でした。特に私は髙松先生が好きなので、髙松先生の講義は非常に楽しかったです。髙松先生の軽快な口調と巧みな話術も相まって、会場は大いに盛り上がりました。オスマン史研究会の時とは異なる話をしていただけたので、オスマン史研究会に参加した方でも楽しめる内容でありました。髙松先生が前におっしゃっていたように、読みたいとは思わない史料であっても読むことが重要であるというのはまさにこの講義が示すところだと思います。そのほかの先生方による講義も非常に示唆に富むものが多く、これからの研究に活かされ得る多くの考え方を学びました。

概して、学生によるポスター発表、口頭発表、そして先生方による講義のいずれも有意義で、かつ今後の私の研究を決定づけるようなものであったことは明らかです。次参加する際には、口頭発表かポスター発表のいずれかを携えてお邪魔しようと思います。感想の提出が遅れたことを含め、多大なご迷惑をおかけしたこと、申し訳ございませんでした。ありがとうございました。